

いわて 復興 だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手
第193号
令和6年度第2号



三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切に、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

岩手県東日本大震災津波追悼式

岩手県・盛岡市
IWATE・MORIOKA

岩手県は、東日本大震災津波から14年となる令和7年3月11日(火)、盛岡市のトーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)において、盛岡広域首長懇談会との共催で、岩手県東日本大震災津波追悼式を執り行いました。

当日は、伊藤復興大臣や県選出国會議員を始めとした御来賓のほか、県民など約300人が参列し、地震発生時刻の14時46分に合わせて黙とうを捧げました。

式辞で、達増知事は「犠牲になられた方々のふるさとへの思いを受け継ぐこと、そして、東日本大震災津波の事実と教訓を確実に未来に伝承し、復興の姿を国内外に発信することは、私たち岩手県民の責務」とし、「国内外で大きな自然災害が起きている中、私たちは、自然災害に強い社会の実現に向けて、東日本大震災津波を今後も伝承していくと述べました。

また、「未来へのメッセージ」では、岩手県立大槌高等学校2年生の阿部豊さんが、「震災の記憶のない世代」にできることは、「人の言葉に耳を傾け、聞いた話から当時を想像」し、「自分が感じた思いを他者に向かって話し、当時を一緒に想像すること」として、「もし自分ならどうするか、それを一緒に考えていくことが、私が思い描く震災伝承の形」と述べました。

この後、参列者は献花台に花を手向け、犠牲になられた方々を悼み、大切な人に想いを寄せました。

また、同日午前には、達増知事と工藤県議会議長が、陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園などで献花をし、被災地で犠牲になられた方々の御冥福をお祈りしました。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945



会場の様子



式辞を述べる達増知事



未来へのメッセージを
発表する阿部豊さん



献花する伊藤復興大臣



黙とうを捧げる参列者

交流

岩手と海外の高校生が 震災伝承について意見交換

 陸前高田市
RIKUZENTAKATA

令和6年12月14日(土)、岩手県は、陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園 国営追悼施設・祈念施設管理棟セミナールームで、県立山田高校、アメリカ合衆国ハワイ州のヒロ高校、インドネシア共和国アチェ州のバンダ・アチェ第一高校の生徒が、お互いの伝承活動を紹介し、今後の活動について共に考えるオンライン交流会を開催しました。



オンライン交流会の様子

この交流会は、東北大学災害科学国際研究所や海外津波博物館等の協力の下、東日本大震災津波の事実と教訓を伝承・発信し、国内外の防災力向上に貢献するとともに、次代を担う伝承の担い手の育成につなげるため、令和4年度から開催しているものです。

当日は、県立山田高校からは、山田町津波碑ガイドマップの作成と、地元小学校へへの出前授業の様子、ヒロ高校からは、津波災害の実話を基にした絵本の作成とその宣伝の状況、バンダ・アチェ第一高校からは津波対策を目的としたデジタルブックの作成やソーシャルメディアの活用など今後の伝承の取組について紹介がありました。

交流会の様子は、県公式動画サイトに掲載していますので、是非ご覧ください。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945



放送

福岡県・九州地方等で 復興テレビ番組を放送

 福岡県
九州地方
FUKUOKA
KYUSHU REGION

令和7年2月22日(土)、福岡放送で、復興テレビ番組「福岡・いわて、感謝のリレー ～知ると行きたくなる岩手～」が放送されました。

この番組は、福岡

県を中心とする九州地方等の方々に、復興の取組、各種支援活動等に対する感謝、三陸の多彩な魅力の発信などを目的に岩手県が企画しました。

番組では、俳優で盛岡市出身の戸塚純貴さん、岩手の情報番組でMCをつとめる渡辺裕太さん、元福岡放送アナウンサーで盛岡市在住の小林茉里奈さんが出演し、両県の情報をそれぞれ発信しました。

岩手県からは、東日本大震災津波伝承館や陸前高田市の街並みの紹介、最年少「大震災かまいしの伝承者」の佐々木智桜さんによる「いのちをつなぐ未来館」の案内などがありました。

福岡県からは、岩手県に応援派遣されていた福岡県職員の紹介と、当時を知る岩手県民からの感謝の言葉、防災事例として福岡市民防災センターや「ぼうさいこくたい2024 in 熊本」の紹介などがありました。

番組を契機に、福岡県・九州地方との絆が更に深まることが期待されます。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945

番組はこちらからご覧になれます➔



福岡・いわて、感謝のリレー ～知ると行きたくなる岩手～ (写真提供:テレビ岩手)

世界へ、未来へ いわて TSUNAMI メモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわて TSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

東日本大震災津波伝承館では、令和7年1月6日(月)から2月16日(日)まで、令和6年度第3回企画展示「自分の命は自分で守るー防災の「自分ごと化」ー」を開催しました。また、令和7年2月22日(土)から3月30日(日)まで、第4回企画展示「災害と水ー水道のない避難生活を生き抜くためにー」を開催しています。

第3回企画展示では、地震だけではなく、大雨、大雪などによる被害が発生し、世界の中でも自然災害のリスクが非常に高い日本において、災害時に「自分の命は自分で守る」ための知識と行動について学び、災害時の自分自身の行動を考える大切さを紹介しました。

第4回企画展示では、大規模な災害が発生した後、命をつなぐために必要な備蓄のひとつである水に関する基礎知識、災害と水の関係や、上手に水を備蓄する方法、水がない状況での代替手段について学び、次の災害への備えを紹介しています。

国内外で大きな自然災害が起きていることもあり、ご覧いただいた皆様からも災害への備えに対する関心の高まりが伺えます。ご来館の際は、常設展示とあわせて、是非ご覧ください。

東日本大震災津波伝承館では、今後も企画展示を通じて、東日本大震災津波の事実と教訓を多くの方々と共有しながら、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館 ☎0192-47-4455



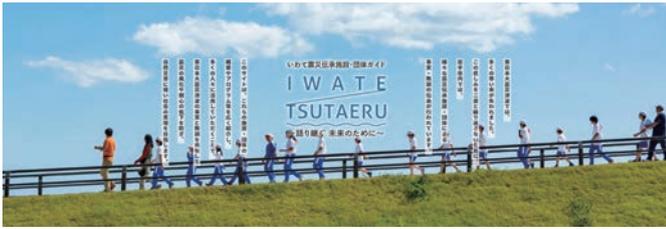
第3回企画展示の様子



第4回企画展示の様子

作成

いわて震災伝承施設・団体ガイド IWATE TSUTAERU ～語り継ぐ 未来のために～

 岩手県
IWATE PREFECTURE


東日本大震災津波では、多くの尊い命が失われました。この悲しみを二度と繰り返さないために、岩手県内では、様々な震災伝承施設、団体による事実・教訓の伝承が行われています。岩手県では、これらの施設・団体の概要やプログラム等を広く紹介し、多くの人々に活用していただくことで、東日本大震災津波の事実と教訓を共有して震災の風化や関心の低下を防ぎ、自然災害に強い社会の実現をめざすため、「いわて震災伝承施設団体ガイド IWATE TSUTAERU ～語り継ぐ 未来のために～」を作成しました。県内の震災伝承施設・団体への訪問や教育活動などにご活用ください。

【主な内容】

- 県内の伝承施設・団体を紹介
岩手県内の震災伝承施設・団体の概要、体験プログラム等の情報を紹介します。
- 教育活動での活用モデルを紹介
岩手県内の公立学校における震災伝承施設・団体の活用事例から、事前学習、現地学習、事後学習等の学習モデルを紹介します。
- そのほかにも様々なコンテンツを用意
復興関係動画やARを活用した震災伝承事例等を紹介しします。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945



開催

みちのく潮風トレイル× 三陸ジオパークシンポジウム2024

 三陸
SANRIKU

令和6年11月30日(土)、三陸ジオパーク推進協議会、認定NPO法人みちのくトレイルクラブ及び独立行政法人日本芸術文化振興会が主催する「みちのく潮風トレイル×三陸ジオパークシンポジウム2024」が、陸前高田市民文化会館 奇跡の一本松ホールで行われました。

シンポジウムには県内外から約250人が参加し、ジオリブ研究所長で神戸大学名誉教授の巽好幸さんが、「三陸の大地の食文化・変動帯の恩恵と試練」と題して基調講演を行ったほか、認定NPO法人みちのくトレイルクラブ常務理事・事務局長の相澤久美さんをファシリテーターに、「トレイルとジオパーク 東北の魅力を国内外に発信」をテーマとして、パネルディスカッションが行われました。

また、この日はシンポジウムの開会に先立ち、認定NPO法人みちのくトレイルクラブ、みちのく潮風トレイル関係自治体協議会及び三陸ジオパーク推進協議会による連携協定締結式が行われました。3者は、みちのく潮風トレイルと三陸ジオパークが位置する東北太平洋沿岸地域の活性化と持続的な発展に寄与するため、連携・協力した取組を進めていきます。



パネルディスカッションの様子

■問い合わせ 三陸ジオパーク推進協議会
☎0193-64-1230

開催

東日本大震災風化防止イベントを開催

 東京都
TOKYO

令和7年3月7日(金)から3月11日(火)まで、東北4県(青森県、岩手県、宮城県、福島県)と東京都は、東日本大震災津波の風化防止と復興支援への感謝を伝えるため、「つながる気持ち。つむぐ未来。」をキャッチフレーズに、東京都港区の汐留シオサイトにおいて「東日本大震災風化防止イベント～復興・その先へ2025～」を開催しました。

会場では、5都県知事の共同メッセージを掲示したほか、東北に縁のあるタレント「宮世琉弥」さんからのメッセージ動画の放映、震災伝承に学ぶ防災コーナーや防災クイズ・防災グッズ展示コーナーの設置、東北4県の復興状況や東京都の支援の取組を伝えるパネル展示やVR視聴体験、東北4県の特産品や地酒、工芸品の販売など多彩な催しを実施しました。

イベント期間中は多くの方が来場し、会場内に設置したメッセージボードには、東北に向けた多数の応援メッセージが寄せられました。

■問い合わせ
岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945



会場内の様子



知事共同メッセージ



岩手県指定有形文化財
「旧吉田家住宅主屋」

世界初 津波で全壊した木造建築物の復旧



旧吉田家住宅主屋
Instagram

吉田家の初代宇右衛門(筑後)は、元和6年(1620)、仙台藩祖伊達政宗により気仙郡24箇村(現在の陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市唐丹)の大肝入^{おおきもいり}※を命じられ、以後代々の当主が明治期まで郡内の指導・監督にあたりました。大肝入の執務所では、享和2年(1802)に気仙郡の御郡棟梁を務めた大工、七五郎により建てられ、藩主や幕府の役人が視察に訪れた際には、宿所として使用されています。

江戸時代の様相に大きく手を加えず、現代まで大切に保存されてきた建物は、平成18年、主屋、土蔵、味噌蔵、納屋(長屋)の1件4棟が「吉田家住宅」として岩手県指定有形文化財に指定されましたが、東日本大震災津波により全壊してしまいました。

被災後、復旧を願う地域住民らが回収した残存部材は、材積で全体の約6割となり、調査の結果、これらの部材を使用して主屋のみを復旧することとしました。津波で被災した部材を使用した木造建築物の復旧は世界初の事業です。多くの専門機関や関係者の支援をいただきながら、復旧事業は進められ、令和7年5月に一般公開が予定されています。

※大肝入：郡内諸役人の監督や、徴税・簡易裁判を担った地方役人における最上位の職

場 所 岩手県陸前高田市気仙町字町裏200番地7
問い合わせ 陸前高田市教育委員会 ☎0192-54-2111(内線554)



令和7年3月完成



陸前高田市★

いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々をご紹介します。第139回は崎廣 千春さんをご紹介します。



～ プチよ市で野田村をもっと笑顔に～

PROFILE

宮城県出身。仙台市で暮らしている際に野田村出身の夫と出会い結婚。2人目を出産後、夫の希望もあり野田村への移住を決意。現在はハンドメイドグループ「UFUFU」の代表を務めながら、3人の子育てに奮闘中。「野田村プチよ市」への出店など、意欲的に活動している。

野田村で出会ったハンドメイド

宮城県出身の崎廣さんが、家族と野田村へ移住したのは10年ほど前のことです。ご主人が野田村の出身で、「将来は地元で暮らしたい」と語り合っていました。以前から何度も野田村を訪れていましたが、東日本大震災後の5月に帰省した際は、見慣れた街は消え、いたる所に瓦礫が積んでありました。「当時は子どもたちが小さく不安もありました。でも周りの人たちの力を借りながら慣れていこうと思ったんです」

移住後は波音の近さに驚いたそう、「最初は雨音かと思いました」と言って笑顔を見せます。新生活に慣れてきた頃、地元出身でNPO法人のんのりのだ物語の代表である下向理奈さんが主催するハンドメイドイベントに参加。ものづくりに魅了

され、自身も作り手になることを決意しました。現在は野田村や久慈市の仲間とともに、手作りの品を製作・販売する「UFUFU」を運営し代表も務めています。

みんなが笑顔になれる未来を

定期的に開かれる「野田村プチよ市」では、物販や子どもたち向けのワークショップを開催。継続する大変さはあるものの、「楽しみにしてくれる子がいる限り続けたいです」と語ります。

崎廣さんは、2025年に小学校や産直の移転が決まっていることから、その影響で商店街の活気がなくなってしまうのではないかと不安を感じているそうです。「世代を超えて、みんなと一緒に盛り上げられるような面白い取り組みができたならと思っています」と、教えてくれました。

岩手県の被害状況

令和7年2月28日現在

- 人的被害 死者：5,147人(余震、震災関連死を含む)
行方不明者：1,107人
- 建物被害(住家のみ、全半壊) 26,079棟
被害状況等の詳細/義援金・寄附金の募集等

いわて防災情報ポータル 検索

皆様のご支援、ありがとうございます

令和7年2月28日現在

- 義援金受付状況 約188億6,636万円(99,710件)
- 寄附金受付状況 約209億5,989万円(26,597件)
- いわたの学び希望基金(※)受付状況 約108億850万円(28,851件)
※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ 検索



いわて復興だより 第193号

令和7年3月26日発行 企画・発行/岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・校正/永代印刷株式会社